

兵庫大学エクステンション・カレッジに寄せる夢



兵庫大学エクステンション・カレッジ顧問

砂川 静壽

皆さん今日は。今年4月から兵庫大学エクステンション・カレッジの顧問として運営のお手伝いをする事になりました砂川です。よろしくお願ひします。私は今年3月まで、兵庫大学の近くにある高齢者大学「いなみ野学園」の学園長を2年間務めて参りました。その間の体験を元に、「生涯学習の意義と今後の方向性」について考えてみたいと思ひます。

いなみ野学園は今年設立46年目を迎えます。その間、全国の高齢者学習を牽引し、その先導性は全国からも高く評価されてきました。いなみ野学園の魅力や特徴は次の三点です。

一点目は、甲子園球場の約1.2倍にも及ぶ広大な専用園地を有し、実にアカデミックで自然の癒しを感じる空間になっている点です。独自の専用園地を持つ学園は極めて稀です。

二点目は、全国の高齢者大学の草分けであり、大学は園芸、健康、文化、陶芸の4学科、大学院は歴史文化、健康福祉、地域活動の3コースを設け質の高い学びを提供している点です。

三点目は、課外活動としてクラブ活動やサークル活動が充実している点です。あわせて3500人を超える方々が日々友人や仲間づくりに励み、学園生の強い絆を創り出しています。

こうした中、今年4月から兵庫大学エクステンション・カレッジが発足しました。その特徴は、まず高齢者のみではなく広く一般の方々を対象にした幅広い生涯学習の場であること、次に、大学が運営するため大学教育との緊密な連携が可能であること、また、高齢者だけではなく、多世代交流が盛んに行わ

れる環境にあること、そして何より寺田池を含めたすばらしい自然環境に恵まれていることなど、数々の優位性があると考えています。東播磨のこの地域は、これまでから生涯学習への関心が高く、私もエクステンション・カレッジの発展を大いに期待しています。

福沢諭吉は「学問のすすめ」の中で、「読書は学問の手段である。学問は実践への方法である。実地に臨み経験を積んでこそ、勇気と力が生まれるはずである。」と述べています。学ぶことは重要ですが、それ以上に、学んだ成果を地域での実践に移していくことはなお意義深いことです。私はそれが生涯学習の真髄であろうと思っています。

兵庫大学といなみ野学園とは、3年前の連携協定締結以来、講座や課外学習、異世代交流等幅広く連携・交流事業を積み重ね、着実に成果をあげてきています。こうした土壌の上で、いなみ野学園では、「学びの成果」を地域に生かすため、来年早々、現役学生や卒業生の地域活動を支援する組織を立ち上げ、地域活動の輪をいなみ野学園から広く発信していく予定です。こうした動きを踏まえ、兵庫大学エクステンション・カレッジが、いなみ野学園と役割分担をしつつ、講座の運営はもとより、地域活動への支援などあらゆる面で緊密な連携・補完の関係を実現できれば、この東播磨地域に、地域ぐるみの生涯学習による街づくりの先導的地域モデルを構築できるものと信じています。¹

砂川 静壽（すながわ しずひさ）

兵庫県庁入庁後、兵庫県神戸県民局長を歴任。
(社福)兵庫県社会福祉事業団理事長。
(公財)兵庫県生きがい創造協会 いなみ野学園元学園長